

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3670600018
法人名	特定非営利活動法人 にしいや
事業所名	グループホーム もみじ
所在地	徳島県三好市西祖谷山村西岡向110-1 (電話) 0883-76-8033

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 7日

【情報提供票より】(平成20年 2月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算 さくら 3.8人, さつき 3.8人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 79.8 歳	最低 73 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・西祖谷山村国民健康保険診療所
---------	-----------------

徳島県 グループホームもみじ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の集落の中に位置し、近くには小学校やゲートボール場があり、近所の人や高齢者が気軽に立ち寄りお茶を飲みながら話す雰囲気がつくられている。この場所で一人ひとりが一緒に生活をしていると感じられるようなホームづくりに努め、家族や地域の協力を得ながら運営されている。利用者の身体機能の維持向上のためのリハビリや口腔ケアに力を注いでいる。利用者が作品を作ったり販売できる「もみじ工房」を持ち、喜びや楽しみの支援がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「会議や研修内容が全職員に伝わる仕組み作り」や「介護計画見直しの具体的な記録」等は、改善されている。「重要事項説明書や契約書への利用者の権利・義務の明文化」と「ホーム便り等を通じた取組状況の周知」は改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票に全職員が目を通して、それぞれの立場から意見を出し合い、管理者に伝える取り組みを行っている。また、課題について、管理者は職員とよく話し合い、共通理解の上で改善に向けた取り組みを実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者、家族代表、民生委員、行政職員、社協職員、地域包括支援センター職員、事業所の役職員等により構成されている。内容は、事業や行事の実施報告、利用者の状況、自己評価・外部評価の取り組み結果の報告、安全対策、感染症対策などについて話し合われている。また、途中で管理者等が退席し、その他の出席者が利用者や家族に対して生活状況や意見を聞くといった取り組みも行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や家族会、アンケート、運営推進会議等を活用し、一人ひとりの意見を聞くことができるよう努力している。意見や要望は、家族の協力も得てミーティング等で検討し、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の職員が多く、自治会委員、消防団員が複数人おり、地域の情報収集、連携がとれている。学校や地域の行事への参加や、野菜作りのお手伝いに出かけたり、地域の住民が立ち寄るなど、多くの人が集う場となっている。また、幼稚園や小学校、婦人会、民生委員などとの交流もあり、地域ぐるみの付き合いが日常的にできている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視したうえで、利用者がよりわかりやすい視点に立った理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に、職員全員で理念について確認合っている。また、介護計画などにおいて理念にそった支援の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の中には、自治会委員や消防団員になっているものがおり、地域の情報収集、連携がよく取れている。学校や地域の行事への参加や、野菜作りのお手伝いに出かけたり、地域の住民やゲートボール帰りの方が立ち寄りたりと、多くの人が集う場となっている。また、幼稚園や小学校、婦人会、民生委員などとの交流もあり、地域性のある双方向の付き合いが日常的にできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解し、問題点や課題に対しては、一つ一つ検討を重ねながら、改善に向けた取り組みを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、利用者、家族代表、民生委員、行政職員、社協職員、地域包括支援センター職員、事業所の役職員等により構成されている。内容は、事業や行事の実施報告、利用者の状況、自己評価・外部評価の取り組み結果の報告、安全対策、感染症対策などについて話し合われている。また、途中で管理者等が退席し、その他の出席者が利用者や家族に対して生活状況や意見を聞くといった取り組みも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当職員を訪問し連携を大切にしながら、運営状況の報告や相談することによりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各担当介護職員が、毎月、生活の状況、身体状況、金銭出納について、行事などの写真を添えて、個別の報告をしている。金銭出納簿には家族の来訪時にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会、アンケートの実施等、意見を言いやすい体制作り心がけている。また、外部の相談窓口もホーム内に明示されている。意見等は、運営推進会議や職員間で話し合わせ、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時には、事前に詳しく説明を行い、時間をかけて理解してもらい、混乱や不安がないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を十分認識し、専門家から身体機能の維持のための日常での配慮や動作方法などの指導を受けたり、外部研修の報告を内部研修として全職員で共有するといった取り組みを行っている。しかし、職種に応じた計画的な研修の受講体制が整備されていない。	○	職員の段階的な育成と、働きながら技量が身に付く内部研修の体系づくりなどを、計画的に実施できるよう、年間計画を立てる等の仕組み作りに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳島県老人福祉施設協議会に加入しており、研修会に参加したときなどに情報交換したりしている。また、地域包括支援センターが主催するケアマネジャー研修会にも参加し、同業者との情報交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の希望や状況により本人のみや、家族同伴などでの体験入居を行い、自然な形で利用を促している。入居当初は希望があれば家族にも宿泊してもらい、職員との関係作りや環境の変化に慣れてもらうなど一人ひとりに合わせた工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な環境づくりを重点に置き、利用者がやりたいと思うことはともに楽しむ気持ちでさりげない支援を行っている。趣味を活かした作品作りや菜園作りなどの場面においては、利用者から教えてもらうこともあり、お互いに協力しながら生活することを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去の生活歴や暮らしぶりを知る努力を行い、これからの生活を本人、家族ともよく話し合いながら把握し、本人主体の支援を行っている。表現の少ない方には、接触と話しかけを多くし把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をよく聞き、理学療法士、歯科衛生士、医師の参加や助言も得ながら、関係職員で話し合い作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中での変化や気づきはすぐに記録し、職員で話し合い、必要に応じて家族にも相談し要望も聞くなど、計画を見直し連絡をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「もみじ工房」を持ち、利用者の趣味を活かした作品を作り、地域の観光店舗で販売し喜びの支援をしている。近くの診療所の医師の協力が得やすい体制がつけられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけの医療機関があり、家族の協力も得ながら適切な医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の時点から、重度化した場合についての話し合いをしている。ホームとしてできることを明確に示し、本人や家族の意向にそうよう支援している。また、家族や医療機関などと緊密に相談しながら支援していくことで、全員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、敬意込めた言葉かけや対応について話し合っている。玄関正面には倫理綱要を掲げており、個人情報保護法の理解に努め、職員全員で話し合い実践に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がやりたいこと、したいことをそっと支援し、一人ひとりの過ごし方を大切にしている。一日中押し花作りに夢中の人やいたり、自分の花畑が欲しいと言って耕す人がいる等、その人らしさを保つ支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で収穫した野菜や旬の食材を献立に取り入れ、調理、配膳、片付け、食事、食器洗いなど職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数、時間、入浴の順番など利用者に意向を聞き決めている。週に3回の入浴にしているが、希望があれば対応ができるよう体制を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、机拭き、食器洗い、洗濯、掃除等に自分の役割として取り組んでいる。押し花、切り抜き絵、花壇の手入れ、編み物、お手玉、お参り袋、色々な作品を作り販売もしており、張り合いや楽しみの支援がされている。山間部のため時には町へ買い物に行く支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、季節を感じたり、地域の方とのふれあいを楽しんでいる。利用者の意向を聞いて、少し遠出をして買い物や外食にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前にベンチが置いてあり、利用者は自由に庭に出たり、腰掛けたりしている。職員は見守りや一人ひとりの状況の把握に努めながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアル、記録も整理されている。地域消防団の協力を得て、年1回の消火訓練と年2回の避難訓練を実施している。非常災害時の備蓄も備えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養のバランスや食事量など外部の栄養士に助言をもらっている。利用者のその日の状態を見ながら摂取量を把握している。水分摂取量についても、記録を取り必要量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者の共同作品、思い出の写真や飾りがあり、廊下の数箇所に長いすが置かれ、利用者が談笑しており、和やかでゆったりとした雰囲気できていた。におい防止のため浴槽には檜の蓋を使用したり、トイレや床拭きに工夫するなど、心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物入れ、机など使い慣れたものを置き、自分が作った作品や写真を飾ったり、机の上には写経の道具が置いてあったりと、家族にも協力を得ながら、居心地良く過ごせるような居室づくりをされている。		